

“但馬牛”今昔物語

兵庫県立但馬牧場公園 「但馬牛博物館」

館長 渡邊 大直

第10回「但馬牛の系統を正統ならしむるとともに、その存続を保護せん」

ブラウンプーム終焉のきっかけとされる第1回産牛共進会の翌年（1910年）、美方郡産牛組合は血統の整理と種雄牛の育成を始め、極めて速やかに但馬牛による改良に舵を切りました。

しかし、国の方針変更は遅れました。

国の臨時産牛調査会は1912年に「和種は既に相当外国種の血液を混じており、これを整理すべき段階にあり、一定の理想に基づきその形質の固定を図ることに努力し、それぞれの地方で新たな牛種の成立を期すべき」と答申しました。それから5年を経て、政府は各県で改良目標を立て、血統の整理や形質の固定を図るよう通達しました。

これで洋種交配は終わり、具体的な改良は県でやることになりました。発育、泌乳量、背線や尻、腿の形状等洋種によって改善された形質を活用すべきとする意見や、洋種の血統は可能な限り排除しようとする意見の違いを埋められず、統一した方向性を導き出せなかったのでしょう。

ところが、兵庫県が改良方針を示した痕跡は見あたりません。

交配需要が無くなったブラウンスイス種雄牛は引き上げましたが、雑種種雄牛はそのまま置かれ、その後順次淘汰されましたが5年ばかり残っていました。更に20年ほど経った1933年、丹但集談会で「但馬牛の発育改善を目的にショートホーン種を利用してはどうか」という話が持ち上がり、イギリスからユライマスター号を輸入しました。この種雄牛も交配需要が無く2年で廃用されましたが、再び洋種導入したということからすると、兵庫県は“但馬牛による改良”を方針としていなかったのではないかとすら思えます。

美方郡議会は1911年に、「国や県の改良方針は容認するとしても、郡は雑種を奨励し、但馬牛を抑制する施策を採るべきでない。ブラウンスイス雑種を奨励するならば、販路拡張、悪質な家畜商の取り締まり、搾乳などの新たな用途開発による価格対策を講ずるべきだ」とする上申書を郡長に提出しています。国や県の改良方針は決まりませんが、美方郡は独自の方針を立てよと提言しているように読み取れます。

こうした中での美方郡産牛組合の速やかな対応には、子牛価格の動きに反応した人たちの存在が窺えます。

1908年の終わり頃からブラウン雑種の値が下がり、純粋但馬牛は上がり始めました。年が変わるとブラウン雑種の価格は更に下がり、9月の役員会で価格動向に対する認識や改良方針の再検討が議論されています。これがその後の対応につながったのではないかと思います。

洋種排除の方針は、但馬地域で共通していました。1918年に但馬5郡の産牛組合が連合して但馬牛血統登録組合ができ、但馬牛の登録が始まりました。また血糖や体型に優れた牛を基礎雌牛とし、その娘牛を保留して但馬牛の繁殖基盤を整えていきました。

そして1921年には兵庫県畜産組合連合会が但馬牛の登録を全県下で行うようになりました。

函城悦司氏は淡路和牛の歴史を“淡路和牛その歴史と復興”にまとめられています。それによると、淡路では1880年代に但馬牛の導入が始まり、1880年にデボン種、1902年にエアシャー種種雄牛が導入されましたが、洋種交配は短期間で終わり、1924年には美方郡から種雄牛30頭を導入し、急速に但馬牛化が進んだといえます。

このように兵庫県の和牛の但馬牛化は大正期に生産者団体主導で進み、「但馬牛種牛体格審査標準」もでき、但馬種という品種が成立していきました。

とはいえ、共進会では鳥取県の因伯種や岡山県の備作種などと同じ基準で審査され、登録方法も共通していて、「各県ごとに和牛を整理固定する」とした国の方針によって別品種になってしまったに過ぎず、1938年には全国登録に移行し、1944年には“黒毛和種”にまとめられます。

当時の登録は、まず体格審査で70点以上のものを補助登記し、両親が補助登記牛で75点以上の牛は予備登録、両親が予備登録牛で77点以上の牛を本登録としました。補助登記は郡、予備登録と本登録は県域で行われました。

中土井系、熊波系、城一系といえば畜産兵庫の読者はよくご存知の種雄牛系統です。系統名になった中土

井の登記番号は補美 984、熊波は補美 983、城崎一は補城 238 で、いずれも補助登記牛です。“補”は補助登記を意味し、“美”は美方郡、“城”は城崎郡で登記されたことを示します。

また但馬牛の遺伝的多様性を図るため、ジーンドロッピングという手法が用いられています。現存する但馬牛の血統を遡れるだけ遡って、行き着いた祖先を始祖牛とし、その構成や影響力で分類する方法ですが、その始祖牛になっている長栄の登録番号は予兵 1、虎ノ一は予兵 201 で、“予”は予備登録、“兵”は兵庫県を示し、これらは予備登録牛です。

このように現在の但馬牛は皆この時代に登録された牛から繋がる子孫です。